



市史へんさん

第 254 号

令和 2 年 5 月 1 日
小松市史編纂事務局
へんさんだより

5月に入ると、八十八夜を迎えます。立春(2月4日)を第1日目と数えて、88日目に当たる日が八十八夜で、今年(閏年のため1日早い)がその日です。「米」という字を分けると八十八になることから、この日は農業に関わる大切な日とされてきました。ちょうど季節的にも安定し、農作物の種まきや茶摘に最良の時期です。特に、霜をきらう茶葉は、「八十八夜の別れ霜」という言葉があるように、八十八夜を境に霜が降りないことからこの日に茶を摘みはじめます。この日に摘む茶は上等とされ、飲むと長生きするとも謂われています。そこで、今月は茶にちなみ、その歴史を紐解きました。部屋で茶を飲みながら、ゆったりとお読みください。

江戸期における こまつの製茶

◇ 製茶のはじまり

前田利常は、小松城へ隠居後、藩内の産業奨励を積極的に行ったが、茶を他国から移入していたことから自国生産を目指し、山城国宇治から茶種を取り寄せ、長谷部理右衛門に、金平と瀬領の地に植栽して栽培をさせた。理右衛門は苦心の末、茶の生産に成功し、承応3年(1654)には新茶を利常公に献上するに至った。この時、金平の茶に、「金の薫(カネカオリ)」、瀬領産には、「谷の音」という茶銘を賜った。この茶銘は、代々長谷部家(屋号は「長保屋」)に伝わっている。



長保屋に伝わる茶壺

◇ 茶の改良

理右衛門を中心に、茶栽培は、国府村埴田や、さらに南部の今江、矢崎、那谷など能美・江沼地域に広がり、生産高が急増していった。

一方、宇治では、元文5年(1740)に煎茶の製法を発見し、この上質茶の製法は、当地でも受け入れ、品質向上が図られた。また、嘉永2年(1849)に、近江の信楽から茶師の磯五郎が来松し、信楽風(焙炉)の製茶を、今江の東方芝山に伝え、さらに、嘉永5年(1852)、串茶屋村に伝授した。その後、磯五郎は須天村の米谷家に婿入りし、文久元年(1861)には上り江村や小松町大幡佐平宅とに、伝習所を開設した。この磯五郎の指導により、能美郡の製茶は改良され、ますます品質が向上した。この磯五郎の業績を讃え、今江の長左衛門と左兵衛の2名が、慶応3年(1867)に、顕彰碑を街道沿いに建立している(現在碑の所在は不明)。



「茶業紀功碑」(那谷町)

◇ 加賀茶の広がり

こうして加賀茶は、安宅港から国内、海外へも輸出され、明治初め頃に全盛期を迎えた。ところが、明治7年(1874)頃から輸出品に古茶やヤナギ葉が混入し、粗悪茶が目立つようになり、生産は減少。海外での信頼も一気に失った。

那谷で製茶業を営んでいた生水和与門はこれを憂えて、製法の研究に没頭し、明治20年、遂に新製法に成功した。その後は増産に拍車がかかり、品質も優良の評価を受けた。この業績に、県から、茶業巡業教師に任ぜられ、各地に指導者として回った。その俸禄は茶業の隆盛に注がれ、この功績に、明治32年に那谷地内に紀功碑が建てられた(写真)。当地の茶が喜ばれるのも和与門の地道な努力の賜物と言っても過言ではない。

市制 80 周年記念『写真でふりかえる小松市～生まれ変わった施設～』

尾小屋鉦山から 大倉岳高原スキー場

尾小屋鉦山は、戦前において全国でも 10 位以内に入る屈指の銅山で、旧加賀藩家老横山家が代々開発を進めた。当時、家老が経営に当たるのは全国的にも珍しく、薩摩藩島津公爵家、延岡藩内藤子爵家と共に、三大鉦山華族と呼ばれている。

この鉦山跡地を利用して大倉岳高原スキー場が、昭和 41 年(1966)にオープンした。



「大倉岳高原スキー場(1966)」(小松市立博物館蔵)



「尾小屋鉦山」(小松市立博物館蔵)



「小松競馬場(1938)」(小松市立博物館蔵)

小松競馬場から 末広運動公園へ

小松競馬場は、昭和 6 年(1931)建設の羽咋競馬場の廃止に伴い、12 年 6 月に移転、落成した。敷地は 3 万坪、一周 1000m のコース。この頃、政府は、軍馬の需要拡大を狙った競馬の振興を積極的に行っていた。戦争で閉鎖されたが 22 年に再開。しかし、24 年の競馬場廃止に伴い、市が買収。その後、末広運動公園として姿を変えた。



「小松市陸上競技場」

上記展示は、図書館西口玄関のショーウィンドーでしています。

<事務局 4月の活動状況と5月の活動予定>

★ 新型コロナウイルスの影響で部会、調査は中止になりました。



<5月のカレンダー> 開室時間 10:00~17:00(火~金)/9:00~17:00(土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6

* は閉室。新型コロナウイルスの影響で、開室日が変更になる場合があります。来室の際は、小松市 HP の「休館または縮小開館する施設等について」の対象施設「図書館」の欄をご覧ください。

小松市史編纂事務局 (小松市立図書館 2 階)

- ・住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内
- ・TEL 0761(24)5315 ・FAX 0761(22)9763
- ・E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>

